Novel, Challenge and Change
All Activities for Cancer Patients

最善のがん薬物療法の実践を目指して

国立がん研究センター

薬剤師レジデント
がん専門修練薬剤師 募集（令和5年度）

国立研究開発法人
国立がん研究センター
National Cancer Center Japan

http://www.ncc.go.jp/

INDEX

2 沿革／設立の目的とその使命
4 薬剤師レジデント制度について
5 薬剤師レジデント研修過程の内容
7 研修に関するQ&A
8 チーム医療に貢献する薬剤師
10 研修スケジュール
11 薬剤師レジデントの生活
12 薬剤業務
14 がん専門修練薬剤師の創設
16 募集要項（薬剤師レジデント）
18 募集要項（がん専門修練薬剤師）
20 薬剤師レジデントより
24 がん専門修練薬剤師より
27 交通情報

設立の目的とその使命

戦後、日本人の疾病構造が変化し、「がん」による死亡が増加し、その傾向はさらに強まることが予測されたため、国として、国民の医療・保健対策上の見地から、がん対策の中核として総合的な「がんセンター」の必要性が強く認識されました。そこで、1960年、当時の日本医学会会長、田宮猛雄氏ら9名の学識経験者からなる国立がんセンター設立準備委員会が発足し、「国立がんセンター」のあり方、将来構想など重要事項について検討し、厚生大臣宛に意見具申書を提出しました。それに従って、1962年2月1日、「国立がんセンター」が正式に発足しました。その目的は、東京に理想的ながんセンターを設立して全国的ながん施策の中枢にすることでした。

その後、1992年に千葉県柏市に国立がんセンター東病院が設立され、1994年には、東病院に隣接して研究所支所、2004年には、がん予防・検診研究センターが築地キャンパスに設立され、翌2005年には柏キャンパスの東病院の中に研究所支所の組織を改め臨床開発センターが活動を開始しました。さらに2006年10月には築地キャンパスにがん対策情報センターが設立され、より一層施設の拡張と充実がなされ、病院、研究所が一体となって予防、診療、研究、研修、情報収集・発信の分野において、我が国のがん施策の中心的な役割を果たして来ました。国立がん研究センターは、我が国のみならず、世界的ながん対策の中核的な施設として、人類の悲願である「がん克服」に向けて、全力で取り組んでおります。

設立時の建物

外来診療棟竣工（昭和53年）

研究棟竣工（昭和56年）

東病院（平成4年）

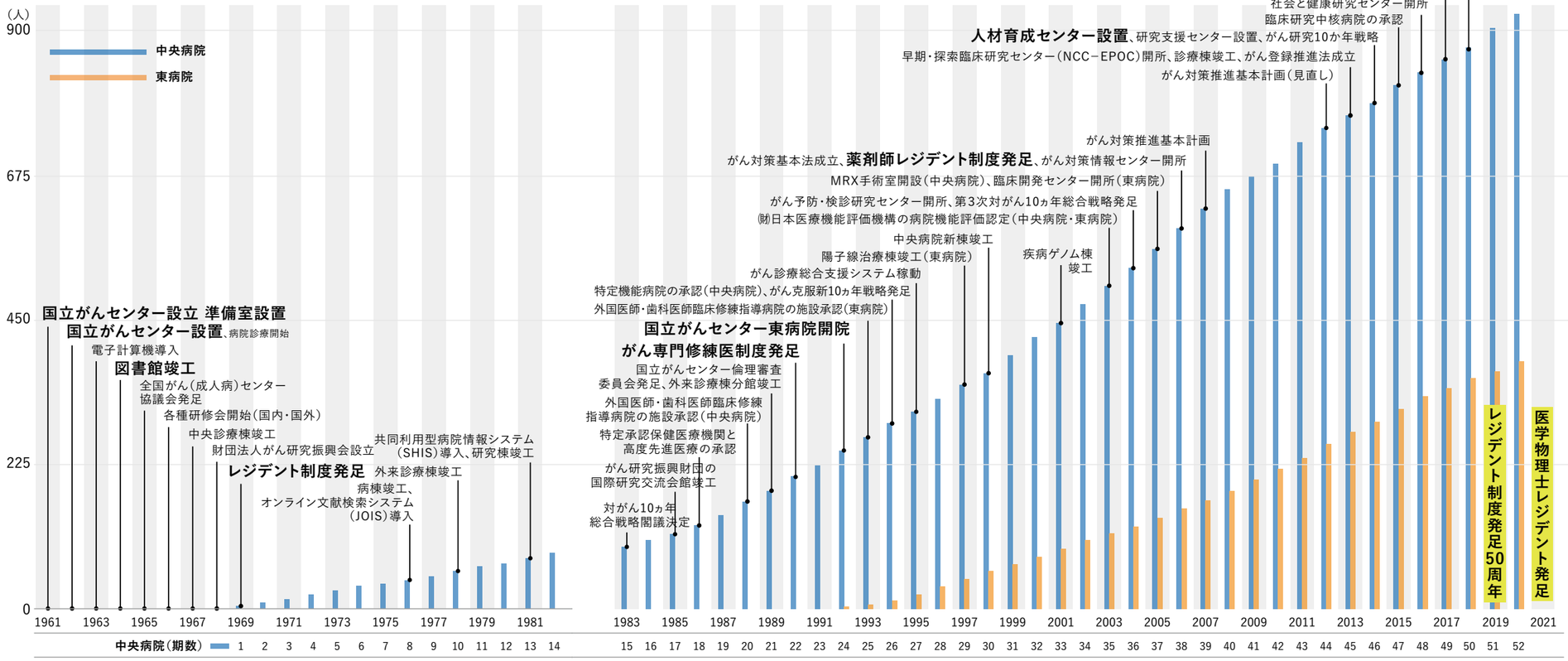
中央病院新棟竣工（平成10年）

診療棟（平成25年）

癌の文字から疒（やまいだれ）を取り除き品とし、それを図案化したものです。 昭和45（1970）年

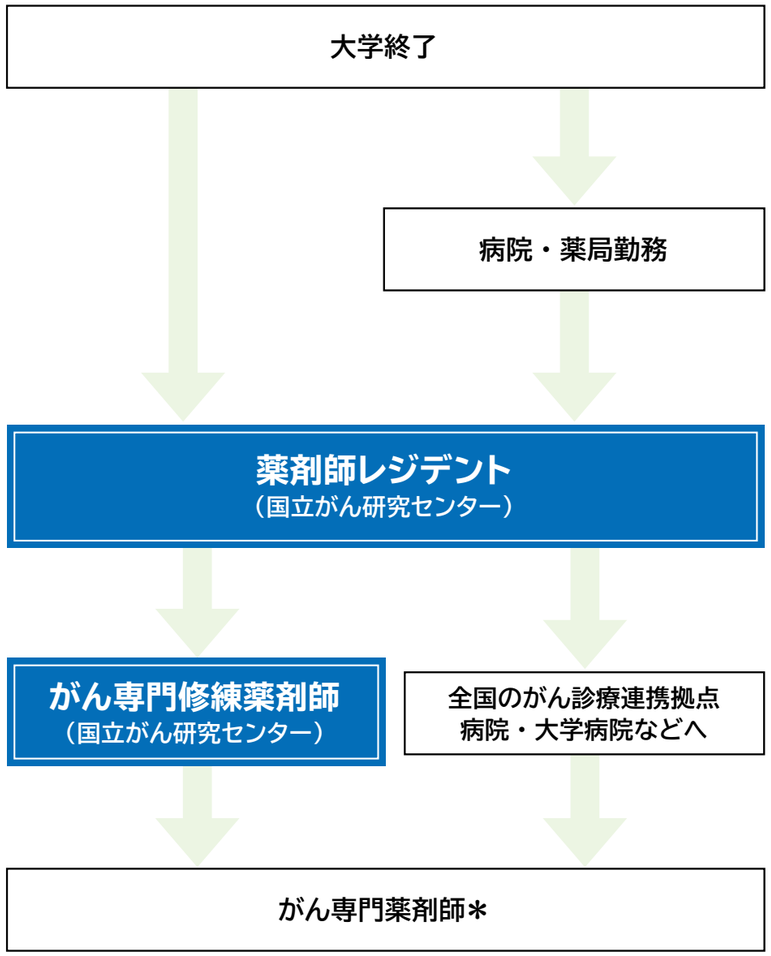
シンボルマークの内側の3つの輪は、「1. 世界最高の医療と研究を行う」「2. 患者目線で政策立案を行う」という理念に基づき、「（1）臨床」「（2）研究」「（3）教育」を表しています。外側の大きな輪は「患者・国民の協力」を意味します。

レジデント制度50年のあゆみ



薬剤師レジデント制度について

「がん（悪性新生物）」は、1981 年以降、わが国の死因の第一位であり、現在、がん医療の進歩・向上に対する社会からの期待は非常に高いものとなっています。国立がんセンターは 1962 年に創設されてから、これに応えるためがん専門の医療従事者の育成を行ってきました。我々薬剤師も専門的なチーム医療の担い手として、がん薬物療法における抗がん剤の治療効果に関する知識や安全な調製技術を有する専門性の高い薬剤師を育成する必要性が高まりました。2006 年に薬剤師６年制教育が開始されるのと同時に、当センターでは薬剤師レジデント制度をスタートさせ、今年で17年目を迎えます。薬剤師レジデント制度では、３年の研修期間において、指導薬剤師のもと薬剤業務や病棟業務に従事しながら、知識や技能を修得するとともに、患者との意思疎通およびチーム内の他職種と連携を図るためのコミュニケーションスキルも身につけることを目的としています。これらを通じて、抗がん剤調製やがん薬物療法、緩和医療など高度な技能と知識を持つがん医療に精通した専門薬剤師を養成します。国立がん研究センター中央病院及び東病院は、日本医療薬学会のがん専門薬剤師研修施設及び日本病院薬剤師会のがん薬物療法認定薬剤師研修施設に認定されており、当院でのレジデントとしての３年間の勤務期間は、その研修期間に相当します。これまでに、14 期生までがこの制度を修了し、それぞれ医療の第一線で活躍しているところですが、将来のがん医療を発展させ、国民・患者の期待に応えるためには、さらに多くの有為な人材が不可欠であり、志ある薬剤師がこの道を目指して頂くことを期待しています。



*認定要件の例：がん専門施設で5年の研修，50症例の経験，
学会発表または論文発表が必要となります。

薬剤師レジデント研修課程の内容

【薬剤師レジデントの研修目標】

Vision：臨床・研究・教育、各分野でリーダーシップが発揮出来るトップレベルの薬剤師による医療サービスの提供を通じて世界最高峰のがんセンターを目指す

【薬剤師レジデント研修課程における到達目標】

（例：消化管内科）

1. 胃癌、食道癌、大腸癌の疫学が理解できる
2. 胃癌、食道癌、大腸癌の発生部位と関連した臨床症状が理解できる
3. 胃癌、食道癌、大腸癌の診断・治療導入時から終末までの一連の流れ（Natural Course）が理解できる
4. 胃癌、食道癌、大腸癌の病期別の治療方針が理解できる
5. 胃癌、食道癌、大腸癌の臨床症状に対応するための処置について理解出来る
6. 胃癌、食道癌、大腸癌のレジメン内容を理解し適正な投与量を確認出来る
7. 上記１～６をふまえ、患者に平易な言葉でわかりやすく説明できる
8. 化学療法以外の支持療法も含む薬剤の適切な使用法を確認できる
9. 患者の問題点を抽出し最優先事項を判断し、優先順位に沿った対応ができる
10. 患者の状況について本人ならびに他職種から情報収集でき、薬学的観点からのアセスメントができる
11. 入院治療から外来治療への移行をサポートすることができる
12. EBM の手法にのっとった批判的吟味ができ、消化管内科カンファレンスで簡潔なプレゼンテーションができる

【研修内容】

●業務を通じた研修

病棟業務、外来業務、注射薬混合調製、麻薬管理、薬剤管理指導業務、外来化学療法業務、緩和ケア、医薬品情報管理業務、TDM 等

●講義による研修

がんの基礎知識、化学療法、支持療法、緩和医療、がん領域の臨床薬理など。その他、薬剤部勉強会、院内で行われる Medical Oncology Conference、緩和医療・栄養管理・医療安全・感染対策の勉強会に参加します。

【研修期間】

３年間

【年間スケジュール】

1年目

抗がん剤調製や麻薬の薬剤管理等の薬剤業務の基本を修得するとともに、薬剤部勉強会、院内のカンファレンスや勉強会等に参加し、がん薬物療法の基礎を学びます。

2・3年目

病棟業務や外来業務を通じてがん医療の臨床経験を積むことにより、がん専門薬剤師として必要な知識、技能を修得します。

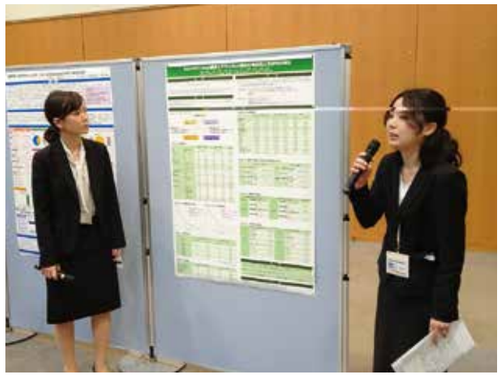
この他、各レジデントは研究テーマを見つけ、毎年中央病院・東病院薬剤師レジデント合同報告会での発表を行い、また関係学会での発表や論文を投稿することが奨励されています。

【充実した講義研修】

がん専門薬剤師研修のための講義を聴講することが可能です。表は令和３年度に行われた研修の日程表です。

	講　義　日	講　　義　　内　　容	講　　師（敬称略）	形式
1	2/2（火）	食道癌	腫瘍内科医	WEB
2	2/5（金）	大腸癌	腫瘍内科医	WEB
3	2/8（月）	乳癌	腫瘍内科医	WEB
4	2/10（水）	緩和医療（薬物療法）	腫瘍内科医	WEB
5	2/12（金）	肝・胆・膵癌（化学療法）	腫瘍内科医	WEB
6	2/15（月）	精神腫瘍	腫瘍内科医	WEB
7	2/16（火）	白血病	腫瘍内科医	WEB
8	2/17（水）	泌尿器癌（化学療法）	腫瘍内科医	WEB
9	2/18（木）	胃癌	腫瘍内科医	WEB
10	2/22（月）	婦人科癌	腫瘍内科医	WEB
11	2/24（水）	皮膚腫瘍	皮膚科医	WEB
12	2/25（木）	造血幹細胞移植、ＧＶＨＤ管理	移植医	WEB
13	3/1（月）	肺癌	腫瘍内科医	WEB
14	3/2（火）	脳腫瘍	腫瘍外科医	WEB
15	3/3（水）	悪性リンパ腫	腫瘍内科医	WEB

【講義形式】
ZOOM による WEB または会議室での少人数の対面講義形式＋ ZOOM による講義配信



研修に関する Q&A

Q 研修の特徴は何ですか？

A 全国に先駆けて導入した薬剤師レジデント制度は今年17期生を迎えました。多くの指導者が専門資格を取得し、10年以上にわたるレジデント指導実績の下、調剤技術から薬剤管理指導業務まで、がんに関する専門知識の習得を目指します。薬剤師だけでなく医師、看護師など他職種との連携を通じて多くのことを学ぶことができます。

Q 教育環境について教えてください。

A 抗がん剤治療の件数は１日 150 件を超え、全国トップクラスの取扱件数を誇ります。そのため調剤経験はもとより薬剤管理指導においても多くの癌種・症例に触れることが可能です。また、年間 100 を超える講義・セミナーが開催されているほか、薬剤部独自の勉強会も毎月行っており、レジデントだけでなく薬剤部員の教育研修にも力を入れています。

Q 研修カリキュラムはどの様になっていますか？

A ３年間のカリキュラムとなっています。２年目までは、調剤業務などを行いつつ薬剤管理指導業務を実施します。この期間の薬剤管理指導業務は、３～４ヶ月程度でローテーションしながら複数の診療科で研修を行います。３年目は希望の診療科で終日薬剤管理指導業務を行い、臨床能力にさらに磨きをかけます。

Q レジデント終了後の進路は？

A レジデント修了後、さらに専門性を高めたい方には２年間のがん専門修練薬剤師コースに進むことができます。レジデントの就職先としては、がん専門施設を初め各大学、地域のがん診療連携拠点病院に異動し、それぞれの立場でがん医療に携わっている方が多くいらっしゃいます。

Q がん医療に関わった経験が少なく、がん専門病院での研修に不安があります。

A 当院のロゴマークにもあるように、国立がん研究センターの目標は世界最高水準のがん診療、最新の治療研究・開発、そして優れたがん医療教育の提供にあります。実際、当院で研修を開始される時点ではほとんどがん治療に関する知識、技術がない方も、研修終了時にはがん医療に従事する薬剤師として独り立ちできるまでに成長します。

Q 研究や学会活動について教えてください。

A 研修中、学会発表、論文作成、臨床研究などなんらかの学術活動を行うことが奨励されています。日常業務から生じた疑問をまとめ研究として発表する場として、中央病院と東病院で年１回合同報告会を実施しています。研究の内容によっては国内外の学会に発表することができます。

Q レジデントの給料はどのくらいですか？

A 薬剤師レジデントの規程に基づき、支給されます。部屋の空き状況によりますが、病院に直結した単身宿舎（有料）を借りことができるため、家賃負担が軽減されています。
（月額）１年目　240,000 円　２年目　250,000 円
　　３年目　260,000 円

Q がん以外の疾患を学ぶことができますか？

A がん以外の疾患の勉強は外部の勉強会で学ぶことができます。また、他の国立病院機構病院との人事交流を行っていますのでレジデント終了後に他の総合病院でがん以外の疾患を学ぶことも可能です。

チーム医療に貢献する薬剤師

薬剤師レジデント・　がん専門修練薬剤師

血液／造血幹細胞移植科

消化管内科

緩和ケア

脳脊髄腫瘍科

呼吸器内科

乳腺・腫瘍内科

肝胆膵内科

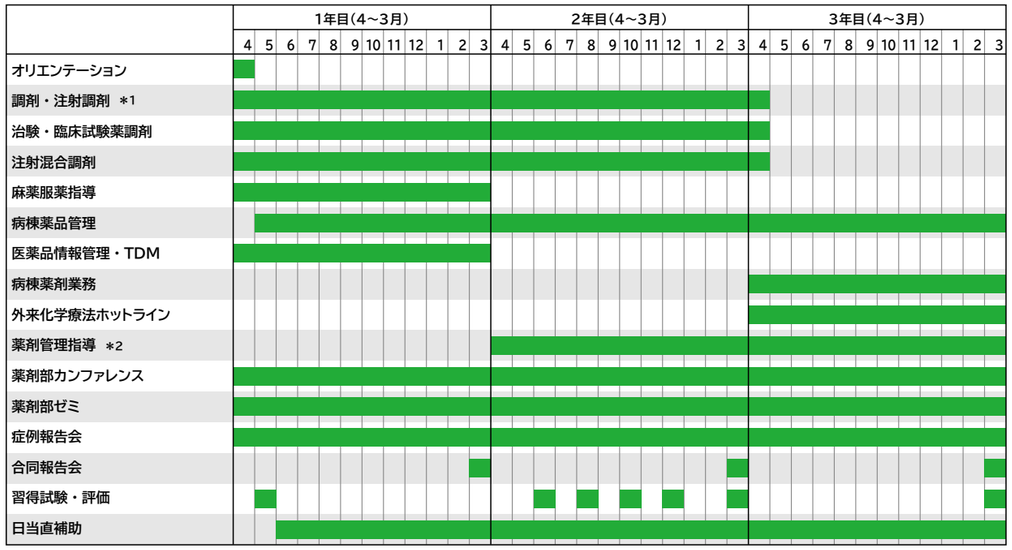
骨軟部腫瘍科

小児腫瘍科

泌尿器後腹膜腫瘍科

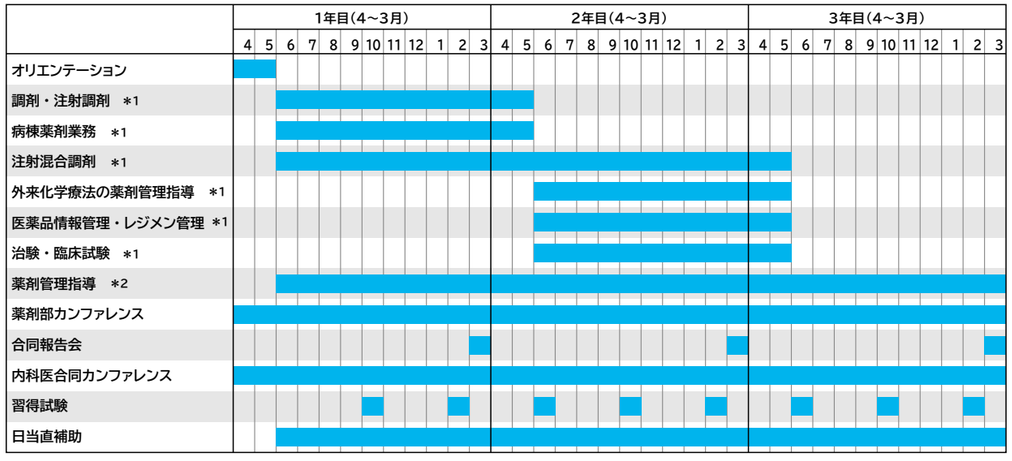
研修スケジュール

【中央病院】



＊1　院内製剤を含む
＊2　２年修了時までに呼吸器、血液 / 移植、消化器、乳腺、肝胆膵を約３ヶ月ごとローテーション。３年目は診療科を固定

【東病院】



＊1　２～４ヶ月ごとのローテーション。
＊2　２年修了時までに呼吸器、消化器、肝胆膵、血液、緩和、頭頸部を４ヶ月ごとにローテーション。３年目は診療科を固定。

薬剤師レジデントの生活

【中央病院・東病院1年目のレジデントの1週間（例）】

中央病院

	8:30	11:30	12:30	17:15
月	処方調剤 注射調剤・注射混合調製 麻薬調剤 レジメン管理	昼休み	医薬品情報	※薬剤師研修・講義研修（9月～3月）
火				※症例検討会
水				※
木				
金				※
土	※		勉強会参加	
日	※			

東病院

	8:30	11:30	12:30	17:15
月	処方調剤／注射調剤 注射剤混合調製	昼休み	処方調剤／注射調剤 注射剤混合調製	※薬剤師研修・講義研修（9月～3月）
火				※
水				内科医合同カンファレンス
木				※
金			薬剤管理指導業務	※勉強会参加
土	※		※勉強会参加	※
日	※		※	※

がんセンター内部での業務など　　がんセンター外部　　※ 日当直または補助業務

【レジデントを支える施設】

図書館

図書館では、国内外のがん対策の推進を支援するため、がんに関する資料を広く収集して利用者に提供するほか、オンラインによる文献検索サービスも実施しています。

薬剤業務

■ 調剤業務

●入院調剤　●外来調剤

内服・外用薬・麻薬の調剤と窓口で使用方法や副作用について患者さんにわかりやすく説明します。

●麻薬の使用法について説明　●院外処方箋疑義照会応需

■ 注射業務

●注射薬調剤　●レジメンの確認

注射薬の調剤と抗がん剤の混合調製を行います。抗がん剤治療についてはレジメンの内容を確認しています。

●抗がん剤混合調製

■ 薬剤管理指導業務

●乳腺・腫瘍内科
●消化管内科
●呼吸器内科
●緩和医療科
●血液化学療法科
●血液腫瘍科・造血幹細胞移植科
●肝胆膵内科
●通院治療センター
●小児腫瘍科
●骨軟部腫瘍科
●泌尿器・後腹膜腫瘍科

■ 医薬品情報管理業務

●医薬品情報の収集・整理　●治療薬物モニタリング
●情報の加工・提供

医薬品に関する情報を収集し、医療者が使いやすい形に加工し提供します。抗がん剤治療のレジメン登録の事務局業務を担います。

●レジメン管理・登録

■ チーム医療への参画

●感染対策チーム：ICT　●褥瘡対策チーム
●栄養管理対策チーム：NST　●外来がん薬物療法患者サポート
●緩和ケアチーム：PCT

■ 外来薬剤師業務

●薬剤師外来　●外来化学療法ホットライン
●通院治療センター

■ 医療連携

●薬薬連携　●地域がん医療研修会

■ 治験管理業務

●治験管理室との連携
●治験薬管理と調剤・調製

■ 医薬品管理業務

●医薬品在庫管理
●麻薬管理
●手術室医薬品管理

■ 製剤業務

●一般製剤調製
●院内特殊製剤調製
●製剤品質試験

がん専門修練薬剤師（チーフレジデント）制度の創設

■中央病院におけるがん専門修練薬剤師制度について

がん領域における人材養成は当院の重要な使命であり、臨床能力の高い薬剤師の育成が社会的にも強く求められていることから、国立がん研究センター薬剤部では、この領域における高い専門性と臨床能力を持った薬剤師の教育に力を入れてきました。そのために当院では、薬剤師教育 6 年制が導入された 2006 年に薬剤師レジデント制度を創設し、指導薬剤師のもとで病院薬剤業務の基本とがん薬物療法に関する基礎から臨床までの幅広い知識・技能を習得し、患者や他職種とのコミュニケーションスキルを身に付けた、がん医療に精通した薬剤師の養成を図っています。

しかし、近年のがん薬物療法の急速な進歩に伴い、病院薬剤師の業務が質・量ともに大きく変化してきたことから、今般、現行の薬剤師レジデント制度を発展させ、病院薬剤師の臨床能力を更に高め、チーム医療や臨床研究への関わりを一層深めることを目指した「がん専門修練薬剤師（チーフレジデント）制度」を 2014 年 4 月に開始することとしました。

今後、薬剤師レジデント制度とがん専門修練薬剤師制度とを一体的に運用することで、日本医療薬学会がん専門薬剤師の認定要件である認定研修施設におけるがん薬物療法の 5 年間の研修実績を積むことが可能になるのみならず、がん領域における指導的立場の薬剤師を育成し、全国のがん診療連携拠点病院に配置していくという当院のミッションに照らしても、両制度はわが国のがん医療にとって重要な一歩であると考えています。この新たな制度が志ある薬剤師にとってよき研鑽の場となり、がん医療について高度な知識と幅広い臨床経験を兼ね備えた専門薬剤師の輩出につながることを大いに期待しています。

■東病院におけるがん専門修練薬剤師制度の特徴

薬剤師レジデント制度は、病院薬剤業務の基本的技術を修得するとともに、がん薬物療法に関する臨床および基礎の幅広い知識と技術の修得を図り、がん医療に精通した薬剤師の養成を目的としています。調剤や注射薬などの払出業務、混注業務に加え、薬剤管理指導業務をレジデント 1 年目より開始して、薬剤師としての一般的な知識と技能、そしてがん医療における薬剤師の役割と各診療科における標準的治療などを並行して習得するカリキュラムが東病院の特徴です。3 年目では診療科への連携を強化し、処方支援、処方薬の説明・指導や副作用のモニタリングなどを支援しながら診療のパートーナーとしてチーム医療への関わりを深めています。

「がん専門修練薬剤師」はチーム医療への関わりを把握したうえで、臨床研究への関わりを深めることを目的としています。薬剤師は臨床研究のパートーナーでもあります。Clinical Question を臨床研究に発展させて、多くのエビデンスが創出されることを期待しています。

がん専門修練薬剤師（チーフレジデント）制度（平成 26 年度より開始）

薬剤師育成のイメージ

- 薬剤師レジデント（3年間）
- がん医療の臨床経験（3年間）

→ がん専門修練薬剤師（原則2年間） → がん専門薬剤師受験資格の取得 → 指導的立場のがん専門薬剤師の輩出

■各コース紹介

●薬物動態学／薬力学（PK／PD）臨床研究コース

がん医療において、抗がん薬による薬物療法は集学的治療の 3 本柱の一つです。最近では分子標的薬の開発により、対象となるポピュレーションの拡大等の面で大きな変化を遂げている反面、個別投与設計ではまだまだエビデンスが不足しています。特に、高齢者など臓器機能が低下している場合や臓器機能障害がある患者においては、薬物療法の中心である殺細胞性薬の選択肢が狭められる一方で、イマチニブに代表される分子標的薬は、PK が直接治療効果に結びつくなど、近年いくつかの興味ある報告がなされ、TDM（薬物治療モニタリング）が行われています。中央病院薬剤部ではこれまで、いろいろな抗がん薬について臨床医と協力して前向き PK／PD 研究に取り組み、エビデンスを構築してきました。本コースでは、さらに国立がん研究センター研究所との連携を図り、これまで培ってきた PK／PD 研究のノウハウに Pharmacogenomics の概念を加えたリバース・トランスレーショナル・リサーチ（rTR）に進んでいく予定です。薬物代謝酵素やトランスポーターの機能解析なども視野に入れ、後期治療開発に資する rTR を是非一緒に行いましょう。

年間スケジュール	4	5	6	7	8	9	10	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	12	1	2	3
固定診療科にてチーム医療の実践	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■											
薬剤部ゼミで研究コンセプト披露		■																				
臨床研究プロトコール作成			■	■	■	■	■	■	■	■	■											
倫理審査委員会にてプレゼンテーション											■											
臨床研究												■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
米国臨床腫瘍学会などにチャレンジ※		■	■									■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

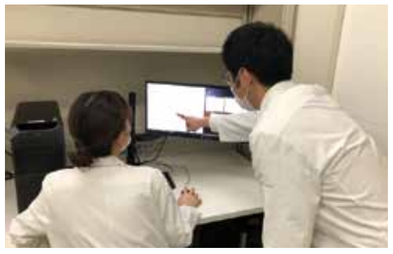
●造血幹細胞移植科専門コース（中央病院）

造血幹細胞移植療法は自家・同種合わせて年間 5,000 人以上の患者さんがその恩恵を受けています。移植前処置の抗がん剤は「超大量」であり、副作用の頻度、重症度も通常とは大きく異なります。また、移植後 GVHD（移植片対宿主病）の症状コントロールも簡単ではなく、長期間に渡って「くすり」との付き合いが余儀なくされます。

私たち薬剤師の務めは、科学的根拠に基づいた「標準的な」治療の実践は当然であり、さらなる＋α（プラスアルファ）、つまり患者さんの様々な背景を踏まえ、薬理学や薬物動態学といった「薬学」を土台にした薬物治療の提案を行っていくことです。それができてこそ真のスペシャリストとして認められます。私たちの＋αが吹き込む風は移植成績の向上に必ず繋がります。しかし本邦ではまとまった症例を経験することが難しく、臨床経験豊富な「指導者」はそれほど多くいません。

欧米では BMT Pharmacist は難関であり、人気も高いといわれています。ぜひ日本の薬剤師も負けていないことを一緒に示していきましょう。

●支持療法コース（東病院）



国立がん研究センター東病院は24床のPCU病棟と国内では数少ない精神腫瘍科を有するがん専門病院です。当コースは患者の全人的苦痛の緩和を目指した薬学的アプローチの実践とその研究を目的としており、緩和ケアチームやPCU病棟での薬剤師活動とそれを土台にした臨床研究を行ってもらう予定です。精神腫瘍科の協力により、抑うつやせん妄など精神的苦痛に関する臨床研究も可能です。当院は地域医療への介入研究を行っていた実績があり、在宅医療の分野でも薬剤師の新たな業務を模索することが出来ます。しかし、薬剤師の新規業務を確立させるためにはそのエビデンスの創出が必要です。当院の様々の医療資源を用いることで出来る研究は多数あります。がん医療に寄与できる新しい薬剤師業務の構築にあなたも携わってみませんか。

●固形腫瘍診療科固定コース

国立がん研究センターでは、5 大がん種（乳がん、肺がん、大腸がん、肝がん、胃がん）以外にも、頭頸部がんや膵がん、骨軟部腫瘍（肉腫）、血液がん（悪性リンパ腫など）、小児がんとさまざまながん種について専門性の高い診療を行っています。既存のレジデント制度では、まず、基本的に 5 大がん種についての薬学的管理介入を中心にカリキュラムが組まれますが、本コースは、こうした希少疾患に対しても薬学的管理介入を実践できる貴重なコースとなっています。また、5 大がんのなかで、がん専門修練薬剤師を卒業したのちに中心的にマネジメントしなければならない領域が決まっている方には、そのがん種において重点的に薬学的管理介入を実践していただけるコースでもあります。研修期間中にはリサーチマインドも養っていただくなど、がん領域において指導的立場の薬剤師となっていただくためのノウハウを学ぶことができます。本コースは、中央・東の交流も可能です。皆さんニーズに合わせたプラン設計が可能ですので、相談していきましょう。

募集要項（中央病院・東病院）・薬剤師レジデント

1. 応募資格

平成25年３月以降大学を卒業した薬剤師免許取得者、または、令和５年３月卒業見込みで薬剤師免許取得見込みの者。

2. 募集人数（予定）

中央病院　　７名
東病院　　７名

3. 出願手続

Ⅰ. 願書受付　　中央病院・東病院それぞれ下記あてに郵送して下さい。
封筒の左隅に「薬剤師レジデント願書」と朱書きして下さい。

【中央病院 送付先】
〒104-0045 東京都中央区築地５－１－１
国立研究開発法人　国立がん研究センター　中央病院
人材育成センター専門教育企画室

【東病院 送付先】
〒277-8577 千葉県柏市柏の葉６－５－１
国立研究開発法人　国立がん研究センター　東病院
人材育成センター専門教育企画室

Ⅱ. 締切日　　中央病院　令和４年５月27日（金）必着
東病院　　令和４年５月27日（金）必着

Ⅲ. 必要書類
a. 願書（所定様式）
b. 健康診断書（所定様式あり、ただし検査項目が網羅されていれば所定外の様式でも可）
c. 薬剤師免許の写し（A４判に縮小）
d. 大学の卒業（見込）証明書または大学院修了書の写し（A4判に縮小）
e. 在職証明書（大学院の在籍証明書も可）
g. 成績証明書（薬学部生のみ）

4. 選抜方法

書類審査、筆記試験および面接試験
なお、応募者が多数の場合は書類にて一次選考を行います。

5. 選考日時

（中央病院）　令和４年６月17日（金）
（東病院）　　令和４年６月９日（木）

6. 選考会場

（中央病院）　国立がん研究センター　中央病院管理棟会議室
東京都中央区築地５－１－１
（東病院）　国立がん研究センター　東病院会議室
千葉県柏市柏の葉６－５－１

7. 合格発表

試験日より３週間後頃を予定　　※採否は郵送にて通知します。

8. 身分

常勤職員（薬剤師）

9. 勤務

薬剤師レジデント研修課程（中央病院、東病院）に基づき、指導薬剤師のもと、薬剤業務および病棟業務に従事します。
（日当直または補助業務を含む）

10. 処遇等

Ⅰ. 手当　　薬剤師レジデント（常勤職員）の規定に基づき支給されます。
Ⅱ. 保険　　社会保険（厚生年金・雇用保険）に加入します。
Ⅲ. 宿舎　　（中央病院）　単身者用の宿舎（有料）を、空き状況により利用できます。
（東病院）　単身者用の宿舎（有料）を、空き状況により利用できます。
Ⅳ. 修了　　所定の研修修了時に修了証書を交付します。

11. 説明・見学会

（中央病院）　令和４年４月 22日（金）　14 時～ 16 時
（東病院）　令和４年４月２1日（木）　14 時～ 16 時　（現地とオンラインでのライブ配信）
※説明・見学会へ参加される方は、参加希望会場、氏名、現住所、所属（施設名または大学名）、連絡先を事前にお知らせください。

説明・見学会参加の連絡先

国立がん研究センター　中央病院・東病院
人材育成センター専門教育企画室専門教育企画係
E-mail : kyoiku-resi@ncc.go.jp

募集要項（中央病院・東病院）・がん専門修練薬剤師（チーフレジデント）

1. 応募資格

（１）国立研究開発法人国立がん研究センター薬剤師レジデント研修を修了した者、または令和５年３月に同研修を修了見込みの者

（２）（１）に相当する学識を有する者で、令和５年４月１日時点で原則として３年以上のがん領域における臨床経験を有する者

2. 募集人数（予定）

中央病院　　２名

東病院　　２名

3. 出願手続

Ⅰ. 願書受付　　中央病院・東病院それぞれ下記あてに郵送して下さい。
封筒の左隅に「がん専門修練薬剤師願書」と朱書きして下さい。

【中央病院 送付先】
〒 104-0045 東京都中央区築地５－１－１
国立研究開発法人　国立がん研究センター　中央病院
人材育成センター専門教育企画室

【東病院 送付先】
〒 277-8577 千葉県柏市柏の葉６－５－１
国立研究開発法人　国立がん研究センター　東病院
人材育成センター専門教育企画室

Ⅱ. 締切日　　令和４年 10 月中旬 必着

Ⅲ. 必要書類
a. 願書（所定様式）
b. 健康診断書（所定様式あり、ただし検査項目が網羅されていれば所定外の様式でも可）
c. 上司または指導者の推薦書（所定様式）
d. 薬剤師免許の写し（A４判に縮小）

4. 選抜方法

書類審査、筆記試験および面接試験
なお、応募者が多数の場合は書類にて一次選考を行います。

5. 選考日時

（中央病院）　令和４年 11 月頃
（東病院）　令和４年 11 月頃

6. 選考会場

（中央病院）　国立がん研究センター　中央病院管理棟会議室
東京都中央区築地５－１－１
（東病院）　国立がん研究センター　東病院会議室
千葉県柏市柏の葉６－５－１

7. 合格発表

令和４年 12 月初旬　※採否は郵送にて通知します。

8. 身分

常勤職員（がん専門修練薬剤師）

9. 勤務

がん専門修練薬剤師研修課程（中央病院、東病院）に基づき、指導薬剤師のもと、より専門性の高い病棟・外来業務や研究に従事します。（日当直または補助業務を含む）

10. 処遇等

Ⅰ. 手当　　がん専門修練薬剤師（常勤職員）手当の規定に基づき支給されます。
Ⅱ. 保険　　社会保険（厚生年金・雇用保険）に加入します。
Ⅲ. 宿舎　　（中央病院）　単身者用の宿舎（有料）を、空き状況により利用できます。
（東病院）　単身者用の宿舎（有料）を、空き状況により利用できます。
Ⅳ. 修了　　所定の研修修了時に修了証書を交付します。

11. 説明・見学会

（中央病院）　令和４年４月 22日（金）　14 時～ 16 時
（東病院）　令和４年４月 21日（木）　14 時～ 16 時
※説明・見学会へ参加される方は、参加希望会場、氏名、現住所、所属（施設名または大学名）、連絡先を事前にお知らせください。

説明・見学会参加の連絡先

国立がん研究センター　中央病院・東病院
人材育成センター専門教育企画室専門教育企画係
E-mail : kyoiku-resi@ncc.go.jp

メッセージ　レジデント16期生より

国立がん研究センター中央病院
樫原　芽依（愛知県出身）

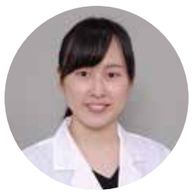
抗がん剤治療では、ほぼ100%副作用が発現します。そのため、身体への負担や精神的苦痛により、多くの患者様は治療に不安を感じます。私は、そのような抗がん剤治療による苦痛を最小限にし、患者様の不安を取り除けるようながん専門薬剤師を目指したいと思い、当院を志望しました。当院のレジデント制度では、多くのがん種、症例に関わることができ、がんについて広く深く学ぶことができます。さらに、1年目は薬剤部内での業務を中心に行うため、薬剤師の役割も把握した上で2年目からの病棟業務で患者様に合った薬物治療を考えることができます。3年間のレジデントを通し、スペシャリストとしての知識基盤を築き、適切な治療を安心して受けていただけるよう精進していきたいと思います。

国立がん研究センター中央病院
森越　琢眞（北海道出身）

大学卒業後、急性期医療を主とする基幹総合病院で3年間勤務した後、当院のレジデントを志望しました。

超高齢社会の我が国では今もこの先も医療においても見過ごせない疾患の一つです。このような社会で薬剤師もまた、さらなる活躍が求められている時代でもあります。がん治療における抗がん剤の適切な使用は薬剤師の役割が大きく、貢献できる場面が多々あります。

私は家族をがんで亡くした時に、薬剤師として治療にどう関わることができるのか、もっとできることがなかったのかを考え続け、より一層がんに関する専門性を高めたいとの思いから当院のレジデントを決意しました。当院のレジデント制度は、がん領域に留まらず薬剤師としての基礎と専門性を高めながら勤務することができます。薬剤師だけではなく他の職種の専門性も高く、多くの研究発表や講演、勉強会があり、がん医療に携わるには最適の環境です。また、日々の生活は同じ目標を持った同期と共に高め合いながら過ごせる環境があることもこのレジデント制度の大きな利点だと感じます。



国立がん研究センター中央病院
友田　有加菜（兵庫県出身）

病院の実務実習で専門薬剤師が活躍している姿を目の当たりにし、私も自分の強みを活かして医療に貢献できる人物になりたいと考え、数ある専門薬剤師の中から患者数が年々増加しているがん専門薬剤師を目指しました。当院のレジデントを志望した理由は、がん専門薬剤師養成に向けた綿密なカリキュラムが構築されており、充実したサポートのもと、最新のがん治療について学べる日本でトップクラスのがん専門病院だからです。3年間という短い期間の中で専門知識と技術を身に付けるのはもちろんのこと、研究報告会や症例検討会を通して自分の考えを他人に発信する機会も多いため、学んだ知識や経験を活かして臨床現場において積極的に治療に介入し、患者様に貢献できる薬剤師に成長したいと思います。

国立がん研究センター中央病院
鈴木　聖也（埼玉県出身）

がん治療の進歩に伴いがんサバイバー人口は年々増加しており、がんになっても安心して生活できる社会を実現する事が求められています。5年次の実務実習では、薬剤師が外来患者さんの抗がん剤の副作用を早期に発見し早期から対策を行っていく事で生存期間の延長に貢献したというデータを提示していただきました。がん領域における薬剤師としてのやりがいを強く実感し、最先端ながん治療について学びたいと考え、日本におけるがん医療の旗艦病院である当院を志望しました。当院は、診療・教育・研究の3本柱の両立を掲げ、薬剤部内でも臨床研究が活発に行われています。日常業務で生じた疑問を臨床研究に繋げ、目の前の患者さんだけでなく、多くのがん患者さんに貢献していく事が出来るような薬剤師を目指しています。当院薬剤部は教育体制が大変充実しており、がん治療を学ぶ上では絶好な機関であると考えております。がん医療に対して熱い志を持っている皆さんと共に当院で学べる日が来る事を大変心待ちにしております。

国立がん研究センター中央病院
脇坂　優美子（東京都出身）

祖母のがん闘病生活を間近で見ていたことが、がん専門薬剤師を目指したきっかけです。従来の抗がん剤では効果がなく、治験薬を試す辛い様子を見て、がんと闘う患者様の力になれる薬剤師になりたいと思い、当院を志望しました。

実際に入職すると、一般的な処方から適応外処方まで触れる機会があり、薬物療法の知識を身に着けるには最適な環境だと思います。がん医療に精通しているスタッフの先生方や先輩レジデントの方から、直接ご指導頂けるのも大きな魅力であり、自己研鑽に励もうという気持ちがより一層強くなります。

情報が得やすく便利な時代ですが、実際に自分で見て・聴いて習得した情報は、自身の強みになっていることを実感しています。

日本一のがんセンターで、薬を扱う責任と不安はもちろんありますが、それ以上に得られるものが多くあり、日々充実しています。

国立がん研究センター中央病院
應和　矢寛（兵庫県出身）

私は、大学5年次の病院実務実習での経験からがん治療について興味を持ち、がん化学療法について集中的に学ぶことができる学習環境が整っている当院の薬剤師レジデントを志望しました。当院の薬剤師レジデントコースでは、がん認定薬剤師を目指していくうえで必要となる学習の機会を多く得ることができます。1年目はセントラルでの業務をこなしていく中で基礎的な薬学的知識を、2年目以降は病棟薬剤師として臨床の場に沿った薬学的知識を身につけることができます。また勉強会や講義研修、年1回の研究活動を通して、がん治療に関する専門的知識を身につけることもできます。

がんは、現在の日本における死因第1位であり、より効果的で副作用の少ない新たな化学療法の需要が高まる今、がん化学療法に関して専門的知識を有する薬剤師というのは今後ますます重要な存在になるであろうと思われます。レジデントの3年間を通して、がん医療の第一線で活躍できる薬剤師になれるようこれから精進していきたいです。

メッセージ　レジデント16期生より

国立がん研究センター東病院
加 藤　紘 大（千葉県出身）

私は当院で病院実習を経験させて頂きました。その期間で多くの優秀な薬剤師の先生方に指導を仰ぎ、尊敬できるレジデントの先輩方にお話を伺い、これからの薬剤師人生において間違いなく必要な経験を積めると考えたため当院のレジデントを志望しました。
入職してから業務や診療科のローテーションを通してがん領域の勉強をするだけでなく、研究にも身を打ち込める最高の環境に身を置くことができ、先の決断が間違っていなかったと確信しています。
皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。難しいとは思いますが、ぜひ後悔しないような選択をしてください。

国立がん研究センター東病院
加 藤　　州（千葉県出身）

私が癌領域に興味を持ったきっかけは病院実習で膵癌患者さんを担当させていただいたことでした。膵癌患者では疼痛が併発することが多く、一日中ベッドの上で痛みをこらえ動けなくなっている姿を見て、疼痛緩和などで薬剤師として貢献したいと思いました。また癌領域は日進月歩で現在最も勢いのある領域であることも興味を持った一因でした。分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬、光免疫療法など次々と新しい治療法が開発されていく中で、その進化を最先端の病院で学びたいと思い、レジデントとなりました。国立がん研究センターのレジデント制度はカリキュラムがしっかりと組まれており、それらを学ぶ環境が整備されています。また指導薬剤師やレジテントの先輩方からもご指導をいただけ、自身の勉強のサポートもしっかりとしていただけます。癌領域に興味がある、薬剤師として多くのことを学びたい方にはこのうえない環境だと思います。業務と自己研鑽の学習を両方こなすのは大変なことも多いですが自分の目標のため、患者さんのため日々精進していきます。

国立がん研究センター東病院
古 岡 桃 果（北海道出身）

病院実習で癌患者の担当をさせていただいた時に疼痛や抗がん剤の副作用で苦しんでいる患者さんに自分は何ができるのかと苦悩したことがきっかけで癌について専門的に知識を高め、チーム医療にしっかりと携われる薬剤師になりたいと思い当院を志望しました。
入職してからは研究に業務、診療科の勉強とこの1年自分が入職する前に想像していたレジデント生活の何倍も大変でした。しかしそれと同時に毎日患者さんに向き合っていく中で自分の目標とする薬剤師像に一歩ずつ近づけていると実感できる時もあり日々充実しています。残りのレジデント生活でも同じ思いをもつ同期と切磋琢磨しつつ患者さんのために何ができるか模索しながら日々精進していきたいと思います。

国立がん研究センター東病院
小 澁　朝 子（千葉県出身）

がん治療を行うほとんどの患者さんに副作用が出現します。副作用により、本来受けられる治療が受けられなくなることや、その人らしい生き方を送ることが難しくなることがあります。そのような患者さんに寄り添いながら、がん治療に貢献できる薬剤師になりたいと思い、東病院のレジデントを志望しました。
診療科ローテーションでは、1対1で指導薬剤師がつき、レジメンチェックだけではなく、病態や疼痛コントロールなど幅広い知識を学ぶことができます。また、レジデントの先輩方との距離が近いため、困ったことをすぐに相談できる環境があります。さらに、落ち込むときに支え合い、切磋琢磨できる同期がいます。この東病院で、多くのことを吸収し、患者さんに還元できる薬剤師になれるよう、一緒に学び、働いてみませんか。

国立がん研究センター東病院
上 原　早 織（東京都出身）

わたしが東病院のレジデントを志望したきっかけは、大学5年次の実務実習で終末期のがん患者さんを担当させていただいた経験でした。さまざまな症状や状況変化に対して必死に調べて提案内容を考えても、一歩遅れてしまう自分の無力さを感じ、そこを打破するためにがん領域について学びたいと考えました。
入職してからはがん領域の学びに加え、併存疾患や抗がん剤治療により誘発されてしまう副作用などについても介入していく必要性を強く実感しています。がん治療を開始する患者さんが本人らしく生活できるよう包括的にケアしていけるよう心がけています。
レジデント生活は業務、研究、自己研鑽など取り組むべきことが多く厳しい点もありますが、スタッフの先生方や医師たちとディスカッションする機会の取りやすい環境はとても貴重だと思います。
最先端の治療や研究が行われている環境で患者さんのより良い未来のために、そして自分自身の思い描く将来のために一緒に切磋琢磨していきましょう。

国立がん研究センター東病院
片 原 帆 奈 美（埼玉県出身）

がん患者の治療をサポートするうえで薬剤師として自分に何が出来るのか疑問に感じ、当院レジデントを志望しました。入職後はセントラル業務、研究、症例発表等充実した日々を送っています。知識と経験豊富な先輩、先生方に支えていただき、1年目ながら患者の治療に介入する機会が幾度とありました。患者の訴えを基に医師に治療内容を提案し、患者に還元できた際にやりがいを感じてます。薬剤師として出来ることは未だ限られており、勉強の毎日ですが、当院は薬剤師として患者様のアウトカム向上に貢献することができる環境が整っていると思います。レジデント生活は大変な部分もありますが、同期と切磋琢磨しながら何事も楽しめるよう心がけています。今後も患者に向き合い、少しでも患者に還元できるよう日々努力していく所存です。レジデントに興味のある方は是非一度足を運んでみてください。

メッセージ　がん専門修練薬剤師修了生より

国立がん研究センター東病院

三 浦　華 歩（5期がん専門修練薬剤師）

私は東病院の薬剤師レジデントを3年間卒業後、研究能力をさらに高めるためにがん専門修練薬剤師として薬動態学 / 薬力学（PK/PD）臨床研究コースに所属しています。近年、薬剤師は臨床業務のみでなく、クリニカルクエッション解決につながる研究能力も求められています。私は薬剤師レジデントとしてがん患者さんに携わる上で、同じ治療でも副作用に個人差があり、その原因や対応方法は確立していない場合もあり、副作用対策に難渋することを経験しました。個別化医療発展のための研究を立案・実施することはけして簡単ではなく、知識や技能の不足を実感しました。東病院では高い研究能力を持つ薬剤師育成のため、明治薬科大学院との連携大学院制度が構築されました。私も連携大学院生の一人ですが、この2年間を通じて患者さんに還元できる研究を立案、実施し、学会発表や論文化を通して、高い研究能力を身につけられるよう精進したいと考えています。

国立がん研究センター東病院

奥 中　真 白（6期がん専門修練薬剤師）

癌診療における薬学臨床研究をもっと深めていきたい。そのような思いから、がん専門修練薬剤師を志望しました。私にこのような思いが生まれたのは、薬剤師レジデントとして学んだ日々からでした。薬剤師レジデント３年間に日常臨床で相対した患者様には、癌のみでなくその他の既存疾患やそれに伴う併用薬を使用している場合も多く、薬剤師として細かな確認や医師・他職種への情報提供に工夫する毎日でした。

現在は、薬物動態予測から患者個々に合わせたより最適な癌治療の提供を目指して、明治薬科大学連携大学院にも通いながら薬物動態や化学構造活性相関から副作用発現の理論を学んでいます。連携大学院にて身につけた薬学知識を活かし、がん専門修練薬剤師としての２年間を通して、治療に即した臨床研究を行う能力を身につけていきたいと考えています。

MEMO

MEMO

交通案内

築地キャンパス

- 中央病院
- 研究所
- がん対策研究所

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1
TEL 03-3542-2511

- 都営地下鉄　大江戸線　築地市場駅 A3番出口から徒歩1分
- 東京メトロ　日比谷線　築地駅2番出口から徒歩5分
- 都営地下鉄　浅 草 線　東銀座駅6番出口から徒歩5分
- 東京メトロ　有楽町線　新富町駅4番出口から徒歩10分

柏キャンパス

- 東病院
- 先端医療開発センター

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1
TEL 04-7133-1111

- つくばエクスプレス　柏の葉キャンパス駅西口から、
  東武バス（国立がん研究センター経由）
  江戸川台駅東口行きまたは柏の葉公園循環行き6分
  国立がん研究センター下車またはタクシー4分
- JR 常磐線・東京メトロ千代田線・東武野田線 柏駅西口から、
  東武バス国立がん研究センター行き30分またはタクシー20分
- 東武野田線 江戸川台駅東口から、
  東武バス（国立がん研究センター経由）
  柏の葉キャンパス駅西口行き10分
  国立がん研究センター下車またはタクシー7分
- 羽田空港から、東武・京浜急行高速バス柏駅西口行き
  1時間15分
- 常磐自動車道 柏 IC. 千葉方面出口から
  国道16号線へ500m 先を右折5分

出願に関する照会及び採用願書用紙の請求先

国立がん研究センター　中央病院・東病院 人材育成センター専門教育企画室専門教育企画係

E-mail（共通）：kyoiku-resi@ncc.go.jp

電話番号（中央病院）：03-3542-2511（内線 2249）

電話番号（東病院）　：04-7133-1111（内線 5551）

国立研究開発法人
国立がん研究センター
National Cancer Center Japan
http://www.ncc.go.jp/